

英国で職業訓練制度の革新が始まっている

中学や高校生時代の社会科の授業で、中世ヨーロッパにおけるApprentice(徒弟修行)制度について習った記憶がある。いま英国でこの徒弟修行制度が若者の職業訓練の柱として見直され、「徒弟修行制度のルネサンス」として注目を集めている。

「徒弟修行は中世に発達し、クラフトギルドと都市政府によって監督されていた。親方は、専門技能に関するフォーマルなトレーニングを提供することと交換に安価な労働力として若者を雇用する権利を与えられていた。徒弟は若く(通常10歳から15歳)、親方の家に住込んでいた。ほとんどの徒弟は契約(7年の通常期間)の修了時点で親方になることを望んでいた。」(Wikipedia から引用)

英国社会においてこの制度は衰退し、1970年ごろには制度はほとんど利用されない状況になっていた。しかし1994年に政府はこのApprentice(徒弟修行)制度による職業訓練を再度活性化するべく制度改革に取り組み、この10年間には制度を利用する若者の数は劇的に増えた。

この制度の下では、若者はApprentice〔徒弟〕として賃金を得ながら、仕事固有のスキルを習得するために、経験豊かな先輩と一緒に働く。徒弟は国認定の資格を得るために、同時に研修休暇という形で、仕事を離れてトレーニングも受ける。英国に住み、学校で全日の教育を受けていない16歳以上の者であれば誰でもが応募できる。ひとつの資格を取るために、習得すべき内容の難易度、本人の能力、応募する業種に応じて、徒弟は訓練期間を1年から4年の間で選択できる。最低賃金は週給95ポンド(14250円)だが、実際はもっと多く得ている。要約すると、この制度のもとで、社員は ・賃金が得られる ・有給休暇がある ・訓練が受けられる ・資格を得ることができる ・仕事に直結したスキルを習得できるなどのメリットを享受できる。

そして今、政府による制度の更なる挺入れが行われつつある。

スキル・人材開発戦略のベースとなるリーチ報告書

英国がグローバル経済の中で長期に生き残るためにどのようなスキルが必要であるかの検討を、政府はチューリッヒフィナンシャルサービス英国の会長をしていたサンディ・リーチ卿に2004年に委任した。そして2006年12月にリーチ卿は検討結果を報告書「Prosperity for all in the Global Economy: World Class Skills」としてまとめた。報告書はそれまでの目標が達成しても、2020年までを眺めると英国のスキルベースは多くの他の先進国に比べるとまだ劣るであろうと予測し、抜本的改革が必要であると判断した。そして、英国がスキルに関して世界的リーダーになるためには2020年までにすべてのレベルでスキルを向上させることが必要とし、具体的な指標を次のように設定した。

- 成人の95%が識字能力と計算能力の両方において基本的なスキルを保有していること。(2005年現在それぞれ85%と79%)
- 90%以上の成人がGCSE(PMI News #39 参照)で、中・上位の学力レベルに達しているか、職業能力的に同等レベルに達していること。(2005年現在69%)
- 英国における毎年のApprentice(徒弟修行者)の数が50万人に達している。またApprentice(徒弟修行)プログラムの質が改善され、またその数を増やすこと。
- 40%以上の成人が大学院卒業レベル以上のスキルを保有すること(2005年現在29%)

このようにみると、Apprentice(徒弟修行)制度が国の方針として根付き、ますます活用されようとしていることがわかる。

徒弟修行制度は英国で16歳以降の若者のキャリアの本流となる

政府発行の解説書「World-class Apprenticeships: Unlocking Talent, Building Skills for All」には次の記述がある。

- 政府はこの徒弟修行制度を16歳から18歳までの若者が選択できる主たるキャリアの選択肢にし、2013年までには、要件を満たす若者すべてが希望すれば必ず徒弟修行制度を受けられるようにする。これを実現するために、この年齢層を対象にした徒弟修行受け入れ企業数を大幅に増加させる。
- 高品質な徒弟修行プログラムを提供するにつれて徒弟修行が若者により魅力的なものとなる。要望が増えれば、政府は企業と協力し、プログラムを拡大する。今後10年の間に5人に1人の若者が徒弟修行制度に参加すると予想している。将来はこのプログラムが16歳以降の若者のキャリアの本流となる。
- 政府はリーチ報告書の提言に従い、25万人以上の徒弟修行制度参加を想定した予算を確保し、実現に向け動き始めた。
- キャリアの更なるアップ、キャリアの転換を目指してスキルを向上させたいと考えている人を支援する目的に、25歳以上の成人を対象とした徒弟修業プログラムを大幅に拡大する。

編集後記

英国の職業訓練制度を紹介しましたが、これもPMI News #38、#39で紹介しました次世代育成ヴィジョン The Children's Plan、およびEvery Child Mattersにリンクした英国政府が進める次世代育成戦略の一環です。

わが国でも次世代育成は喫緊の課題です。国による産業発展の歴史的な差異は確かにありますが、このような10年以上の長期的なヴィジョンや戦略は必要だと思います。野尻